

特養なごやかハウス岳見（名古屋屋市）

共有部に転倒時の衝撃吸収マット

歩行を妨げずにケガ予防



社会福祉法人なごや福祉施設協会の特養「なごやかハウス岳見」（名古屋屋市、今井久志施設長）では、食堂内にくつろぎスペースを作り、座るのが困難な利用者などが、希望する場所で安心・安全に過ごせる環境づくりを取組んでいる。

同施設の平均要介護度は3.8で、認知症の利用者が約半数。ケア統括者の山口憲洋氏は「重度者だけでなく、比較的自立した生活をしていても、認知症による不穏により転倒やケガのリスクが高い方も多い。誰もが安心して過ごせるスペースの確保が必要だった」と振り返る。

薄さと衝撃吸収力を両立

数年前より食堂内の一角にテレビやソファを配置したくつろぎスペースを設置（写真）。車いすでの座位保持が困難な人や、不穏によりケガのリスクが高い人などが利用している。

これまでは、ソファからの転落・ケガを防ぐため、床にベッド用マットレスを敷いて対応していた。しかし、マットレス上で立ち上がった際の沈み込みでバランスを崩して転倒したり、マットレスの厚みにより足がつまづくなどケガのリスクが高くなってしまった。

そこで、厚さ3mmで床に敷くことで、転倒時の衝撃を吸収する「スラージュフロアクッション」（イノアックリビング製）を導入した。

スラージュには介護帽にも使用される、衝撃吸収の特性がある高機能ウレタン素材「PORON（ポロン）」を採用。厚さはわずか3mmと一般的な衝撃吸収マットよりも薄く、車いすはもちろん、スリッパやすり足、杖を使用した場合でも容易に歩くことができ、つまずきにくい。

両面防水加工でアルコール消毒や清拭が可能。裏面はすれにくい素材で、硬い床やフローリングにも接着剤無しで設置でき、設置場所の変更も簡単だ。

「ベッドマットレスの上を数歩歩くだけで、転倒のリスクが高くなるため、立ち上がりと同時に介助するの常に見守っている必要があり、職員負担も大きかった」と山口氏は振り返る。「スラージュは足が引っかからない薄さで、

上を歩いてもバランスが崩れず、万が一の転落時にしっかりと衝撃吸収できるクッション性を兼ね備えている点が良い」と導入のきっかけを説明する。

同施設では利用者が安心・安全に自立した生活を送れるよう、ベッド下に設置するセンサーマットレス等も活用し、サポート体制を整えている。

山口氏は「日中一人で居室で過ごすのはさみしいという人も多い。寝たきりの人でも、一緒の空気で安全に過ごせる環境を整えることが重要」と強調する。

「人手が少ない中、用具等も活用しながら、職員ができることと利用者の想いをしっかりとアセスメントして、希望を叶える自立支援に取り組んでいきたい」と語る。

報酬改定では、安全管理の外部研修を受けた担当者を決め、施設全体で事故発生防止等の安全対策に取組む事業所を評価する「安全対策体制加算」が新設された。

同施設では4月より算定を開始。介護主任を中心に外部の安全管理研修を受けている。「事故を防ぐためのこまめな見守りだけでなく、なぜ事故が発生したのか、状況や利用者の身体状況などを総合的に判断できる分析力と知識を身に着けた職員を順次増やし、安全な施設体制を維持していきたい」と語る。

スラージュに関する問合せはイノアックリビング（☎050・3135・8806）まで。



くつろぎスペースに設置されたスラージュ（中央）

21年介護